

総合計画審議会計画推進評価部会（10月28日）の意見と対応

委員名	意見要旨	対応
内田委員 能登委員 平田委員 坪谷委員 岩田(知)委員	「SDG s」は、まだ県民や中小企業に十分浸透しているわけではない。評価報告書や概要版でSDG sについて普及啓発していくとともに、SDG sを座標軸とした検証の意義やその結果から何が分かるのか示す必要がある。	事業部局と連携し、引き続きSDG sの普及啓発に取り組みます。 また、評価報告書や概要版の中で、SDG sについて分かりやすい説明を記載します。
杉田委員 矢島委員	「プロジェクトの主な取組みとSDG sのゴール」について、1つのSDG sのゴールには、複数のプロジェクトが対応しているはずであるので、整理を工夫する必要がある。	複数のプロジェクトが1つのSDG sゴールにつながっていることを示します。記載例も修正しました。
中西委員	プロジェクトごとの評価だけでなく、プロジェクト横断的なつながりにも着目し、プロジェクトの全体評価にもこれまで以上に注力する必要がある。	プロジェクトの全体評価の充実に努めるとともに、SDG sを座標軸とした検証により、「いのち輝くマグネット神奈川」の実現に向けて、県の施策が、様々な分野においてバランス良く進み、経済・社会・環境の三側面に配慮して総合的に取り組まれているかなどを確認します。
矢島委員	資源の選択と集中の議論につなげるため、施策と、「合計特殊出生率」などの社会環境の変化の関連にも着目し、中長期的な分析を行う必要がある。	4年目に行う点検では、施策と社会環境の変化の関連を整理し、指標なども活用して中長期的な施策の成果の分析に努めます。
小池委員	「社会環境を表す統計データ等」は、他県や全国平均との比較だけでなく、最も良い成果が出ている県との比較を行っていく必要がある。	可能な限り全国や他県との比較の中で取り入れていきます。
今井委員	評価に当たっては、指標やKPIの算出方法や設定の考え方を踏まえる必要がある。	第3期実施計画プロジェクト編の98ページ以降に記載している指標・KPIの設定の考え方を踏まえ、評価を行います。
小池委員 今井委員	取組みと関連する事業費を示す必要がある。特に達成率が著しく低い数値目標などについては、十分なインプットがあったのかも含めて資料を示し、検証していく必要がある。	第3期実施計画主要施策・計画推進編の70ページで掲載したプロジェクト事業費の予算化の状況を表す予算化率を評価報告書の中で示します。 また、達成率が著しく低い数値目標などについては、事業部局とも調整し、どのような情報を提供できるか検討していきます。
平田委員	将来的な人口減は避けられないことから、神奈川県に外国人が多いという強みを生かした施策を掲げる必要がある。	いただいたご意見については、事業部局と共有し、今後の参考とさせていただきます。
岩田(知)委員	評価がプロジェクト全体として「概ね順調」であったとしても、総合分析では、順調ではなかった取組みについても記載する必要がある。	総合分析は、順調でないものの記載にも努めます。なお、記載例も修正しました。
朱委員	「主な取組みや統計データに関する情報」は、ホームページアドレスだけでなく、QRコード（二次元バーコード）も記載するなど、アクセシビリティを高める工夫をする必要がある。	いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。
能登委員	「主な取組みや統計データに関する情報」は、県民がホームページにアクセスし、県の取組みに「いいね」をつけられるような仕組みにできないか検討する必要がある。	いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。
山本委員	「KPI」の用語説明を記載する必要がある。	評価報告書の中で用語を説明します。